

# 高校野球に対する価値観の揺らぎに関する研究

—「鍛錬主義」と「科学主義」のせめぎ合い、および SNS の作用に着目して—

中山健二郎\*

## 抄録

本研究の目的は、高校野球に対する人々の価値観の揺らぎに関する現代的な諸相を把握することである。高校野球はメディアを通じて、「鍛錬主義」的な価値に基づく「青春」「若者らしさ」の「物語」を人々に共有し、人気を獲得してきたとされる。しかし、今日では、投手の連投が「炎上」するなど、高校野球に対する人々の価値観の揺らぎが、現代的なメディア環境を通じて表出している様相がみられる。その為、高校野球に対する人々の価値観の揺らぎを捉えるにあたっては、現代的なメディア環境や高校野球に関する実践のあり方を踏まえて検討していく必要がある。本研究では、夏の甲子園における投手起用法の変化に関するスコアデータの分析、高校野球に対する価値観についてのアンケート調査、高校野球にまつわるインターネット・メディアの炎上に関する言説分析の3点から、高校野球に対する人々の価値観の揺らぎとその背景、およびインターネット・メディアの作用について検討した。

研究の結果、主に以下の知見が得られた。

- ・ 夏の甲子園における投手の完投は、特に1990年頃以降に顕著に減少してきており、医科学的知見と連動した、実践の「科学化」がみられた。
- ・ 人々の「高校野球観」は、「鍛錬主義」と「科学主義」という2つの傾向性が看取され、例えば情報を批判的に検討する者に「科学主義」を重視する傾向がみられるなど、属性による「高校野球観」の差異がみられた。
- ・ 「高校野球観」において「鍛錬主義」を重視する属性の者も、「科学主義」を重視する属性の者も、どちらも「高校野球の見方」については、特に「物語」性やプロと異なる教育的価値などに着目していた。
- ・ インターネット・メディアにおける炎上は、問題化された事象が生じた直後に瞬発的に表出していた。
- ・ インターネットに書き込みをする人の意図は、「問題提起」よりも「情報共有」や「なんとなく」と回答した者の割合が高かった。

高校野球における人々の価値観については、変化する実践を背景として、「鍛錬主義」を重視するか、「科学主義」を重視するかという揺らぎが生じているものとみられる。インターネット・メディアにおける炎上は、投稿者の意図とは別に、結果としてこうした価値観の揺らぎを可視化する作用をもつと考えられる。しかし、「青春」「若者らしさ」といった高校野球に対する認識の大枠は、価値観の揺らぎに関わらず、人々に共有されているものと推察される。

キーワード：高校野球，価値観，揺らぎ，インターネット・メディア

\* 立教大学大学院 コミュニティ福祉学研究所 〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

# The Fluctuation of high school baseball Values in Japan

—Focus on rivalry between “disciplinism” and “scientificism” , and the effect of the social media—

Kenjiro Nakayama \*

## Abstract

The purpose of this study was to examine the fluctuation of high school baseball Values in Japan today. In Japan, high school baseball gained in popularity by the media, as to taste “youth narratives” based on “disciplinism”. However, recently, it can be seen the fluctuation of high school baseball values. “Internet Flaming” about excessive pitching is an example in this case. Therefore, to examine the fluctuation of high school baseball values in Japan today, it needs to consider that up-to-date media environment and the change in approach for competition and practice in recent years. In this study, I carried following 3 analysis to find out the fluctuation of high school baseball values in Japan today. First, I analyzed the tactical change in the national high school baseball tournament in Japan called “Koshien” using score database. Second, I analyzed our high school baseball values by using a questionnaire. Third, I analyzed social media statements about high school baseball focused on “Internet Flaming”.

Following points were suggested in this study.

- It has decreased only one pitcher completing whole games from in 1990 and later. It is regarded as advancement of the scientific method with medical knowledge.
- It has turned out that there are two tendencies of “View of high school baseball”, “disciplinism” and “scientificism”, and different people has different point of view. For example, people who have a critical attitude to information focus on “scientificism”.
- Both who focus on “disciplinism” and who focus on “scientificism” pay attention to “youth narratives” and the educational value of high school baseball.
- “Internet Flaming” has occurred instantaneously on the morrow of the problem occurring.
- People who post about high school baseball on the social media more intend to “share information” or “somehow” than “pose a problem”.

It seems that the moot point of the fluctuation of high school baseball values is two tendencies of “View of high school baseball”, “disciplinism” and “scientificism”. In those circumstances, there is the tactical change as advancement of the scientific method. “Internet Flaming” make visible the fluctuation, regardless of the poster’s intention. However, regardless of the fluctuation, most people have the interpretive framework, “youth narratives”, about high school baseball in Japan.

Key Words : high school baseball, values, fluctuation, social media

---

\* Rikkyo University Graduate School of Community and Human Services  
1-2-26 Kitano, Niiza-shi, Saitama, Japan 352-8558

## 1. はじめに

高校野球はこれまで、メディアを通じて「鍛錬主義」的な「青春」「若者らしさ」の「物語」を伝えることで人々の支持を受け、我が国固有の文化として広く国民に浸透してきたものとされる(清水, 1998)。しかしながら、近年では、投手の連投が問題視され SNS 上で炎上が生じる(中山・松尾, 2019) など、高校野球に対する人々の価値観の揺らぎが、現代的なメディア環境を通じて表出している。スポーツに関する医科学的知見が蓄積され、青年の健全な育成という観点から「科学主義」的なあり方が求められる一方、「鍛錬主義」的な価値が人気の基盤を形成してきたという両義性を有する高校野球について、今日、人々の高校野球に対する価値観が、どのような背景をもとに、どのような形で揺れ動いているのかを明らかにすることは、今後の高校野球についての制度設計や報道のあり方等を検討していくうえで、重要な研究課題であろう。

高校野球にまつわる価値や観念に関しては、従来、高校野球が成立・発展した歴史的背景に関する検討(有山, 1997) や、メディアが高校野球をどのように報じているのか(清水, 1998 ; 加藤, 2009) という観点から検討されてきた。しかしながら、受け手が皆メディアの報じ方をメディアの意図通り画一的に解釈しているとは限らない。よって、受け手を分析対象とした価値観形成に関する実証的な検討が必要とされる。また、この点を検討していくにあたっては、実際に高校野球における練習や試合などの実践のあり方が今日どのように変化しているのか、新たに発達したインターネット・メディアが、価値観形成にどのように作用しているのかといった、高校野球とメディアを取り巻く現代的な背景を念頭に置く必要がある。

## 2. 目的

本研究は、高校野球に対する人々の価値観の揺らぎに関する現代的な諸相を把握することを目的とする。具体的には、まず、価値観の揺らぎの背景にある「科学主義」的な実践の展開について、甲子園大会における戦術の変化という観点から検討する。次に、人々の高校野球に対する価値観が、具体的にどのようなように揺れ動いているのかについて、アンケート調査の分析から検討する。また、インターネット・メディアに関する分析を通じて、価値観の揺らぎに対して、インターネット・メディアがどのように作用しているのかについても検討していく。

## 3. 方法

### 3.1. 「科学主義」的な実践の展開に関する分析

高校野球における「科学主義」的な実践に関する象徴的事例として、夏の甲子園大会において、投手の「完投」と「継投」の投手戦術が、歴史的にどのように変化しながら用いられてきたのかについて、朝日新聞社と朝日放送テレビが夏の甲子園大会に関する過去の戦績を提供しているウェブサイト「バーチャル高校野球」のデータを参照し、分析を行う。

### 3.2. 高校野球に対する価値観の揺らぎに関する分析

高校野球に対する人々の価値観について、インターネットを用いた質問紙調査の分析を行う。学術調査の実績が多くサンプル抽出や調査手続きに信頼性のあるインターネット調査会社 A 社に委託し、2019 年 7 月 11 日から 12 日の 2 日間で、A 社に登録されたモニター 728 名を対象として調査を実施した。質問は、基本的属性、野球経験、メディア行動・態度、「高校野球観」、「高校野球の見方」、「インターネットへの書き込み」など、計 20 項目を設定した。

### 3.3. インターネット・メディアの作用に関する分析

「鍛錬主義」的な高校野球のあり方に対する炎上の象徴的事例として、投手の連投が社会的な議論を呼んだ 2013 年春の甲子園大会における「安楽投手(済美)連投問題」について言及した Twitter 言説の分析を行う。『Twitter 高度な検索』機能を用いて、連投問題が生じた 2013 年 3 月 31 日から大会終了日翌日である 4 月 11 日までの 12 日間で、「安楽(安楽) and 連投」のキーワードを含んだ Tweet を抽出し、Tweet 内容の傾向や Tweet 表出の時系列推移について分析し、その作用を検討していく。

## 4. 結果及び考察

### 4.1. 「科学主義」的な実践の展開

第 1 回夏の甲子園(1915 年)から第 100 回夏の甲子園(2018)まで、10 大会毎に、全試合の全スコア(両校分のため試合数×2)の投手起用法を抽出し、1 人の投手が 1 試合を投げ抜く「完投型」と複数の投手が登板して 1 試合をつなぐ「継投型」に分類した。大会ごとに全スコアにしめる「完投型」の割合(完投率)を析出しグラフ化したものが、図 1 である。

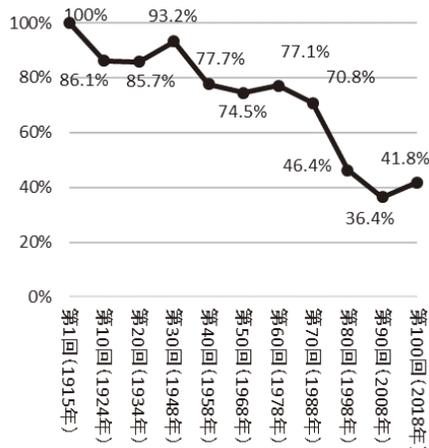


図1 夏の甲子園における完投率の推移

図1をみると、第一回大会(1915年)で完投率が100%であったところから、歴史的に完投率が減少し、今日に至っていることがわかる。とりわけ、1990年代頃から、顕著な完投率の減少がみられている。この変化の背景をみると、1980~90年代にかけて高校野球に関する医科学的基礎研究(林, 1983; 山内ほか, 1994)が散見され、また、医師による選手検診の義務化(1994年)、休養日の再設計(2013年)、タイブレーク制の導入(2018)など、投手の傷害予防に寄与する制度的対応が段階的に設計されてきていることがわかる。

このように、夏の甲子園における投手起用法に着目すると、特に1990年代後半以降に、医科学的知見の蓄積と制度的対応に呼応して、高校野球の実践形式が「科学化」してきている一側面が看取された。

## 4.2. 高校野球に対する価値観の揺らぎ

### 4.2.1. サンプル特性

本調査は、表1に示した通り、男女・年代別に均等化した割付を行い、728名を対象として回答を得た。

回答者のスポーツ実施頻度については、週1回以上のスポーツ実施率が39.3%であった。また、学校期(中学・高校)の運動部活動経験については、経験ありが68.7%、経験なしが31.3%であった。野球経験については、中学期で12.9%、高校期で9.0%が、学校野球部あるいはクラブチーム・サークル等への所属経験を有していた。

表1 調査対象者

	男性	女性
15~19歳	52	52
20代	52	52
30代	52	52
40代	52	52
50代	52	52
60代	52	52
70歳以上	52	52
小計	364	364
合計	728	

### 4.2.2. 高校野球とメディア利用

「日常的な情報取得に最もよく用いるメディア」および「高校野球の情報取得に最もよく用いるメディア」について、表2に示した結果が得られた。

メディア	日常的な情報取得	高校野球に関する情報取得
テレビ	52.6%	64.8%
新聞	6.6%	8.1%
ラジオ	1.9%	1.9%
雑誌	0.7%	0.5%
インターネット	33.7%	11.5%
その他	0.4%	0.3%

高校野球は一般的な情報取得と比べ、相対的にマスメディアの利用が多く、インターネットによる情報取得は少ないことが示唆された。

### 4.2.3. 「高校野球観」

「高校野球観」に関わる7つの質問項目について、「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」の4件法で回答を得た。回答結果について、主因子法による因子分析を行ったところ、2因子が抽出された。第1因子については、「人間修養」「精神力」「努力」など、高校野球の「鍛錬主義」的側面を重視する項目の因子負荷量が高く、第2因子については、「科学的」「合理的」「データ重視」など、いわゆる「科学主義」的側面を重視する項目の因子負荷量が高かった。この点を踏まえ、2因子をそれぞれ、「鍛錬主義」「科学主義」と命名し、改めて確証的因子分析を用いてモデル化した結果が、図2である。

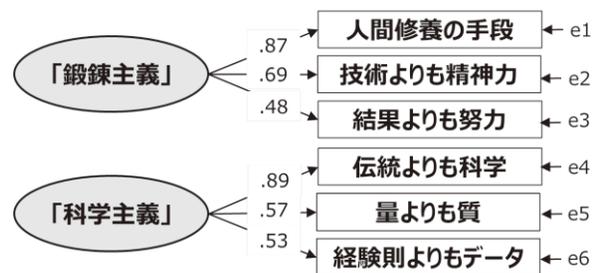


図2 「高校野球観」に関する確証的因子分析 (パス係数は標準化推定値)

この結果を踏まえ、「高校野球観」の傾向性がどのような属性と関連しているのか、回答者の属性と2因子の因子得点について分散分析を行った。その結果、性別や年代、よく利用するメディアなどの属性については有意差がみられなかったものの、野球経験の有無、および情報観の差異による有意差が認められた。具体

的には、野球経験が有る者の方が「鍛錬主義」を重視する傾向にあり、また、情報を批判的に検討する者や、複数の情報を見比べる者の方が「科学主義」的傾向にあることが示された。表3は、情報を批判的に検討する態度と「高校野球観」に関する結果を示したものである。

表3 情報を批判的に検討する態度と「高校野球観」因子得点の平均点

	どんな情報でもまず疑ってかかるほうだ			検定
	そう思う+ ややそう思う (n=281)	あまりそう思わない +そう思わない (n=153)		
F1: 鍛錬主義	-0.07	0.13	p<.05	
F2: 科学主義	0.17	-0.17	p<.001	

平均を0とし、数値が高いほど肯定的、低いほど否定的

#### 4.2.4. 「高校野球の見方」

高校野球の試合やメディア報道についてどのような点に注目し、解釈しているのかに関して、「物語」に関わる見方、技術に関わる見方、戦術に関わる見方、独自の意味に関わる見方の4カテゴリーからなる質問項目に、それぞれ「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5件法で回答を得た。

回答結果について、「高校野球観」で有意差がみられた野球経験の有無、および情報観の差異ごとに分析を行った結果、両属性ともに技術に関わる見方のみ有意差が認められ、野球経験がある者、および情報を批判的に検討する者や複数の情報を見比べる者は、両者とも相対的に技術に着目して高校野球を見る傾向性が認められた。

表4は、情報を批判的に検討する態度と「高校野球の見方」に関する結果を示したものである。技術に関する項目は、有意差はみられたものの、パーセンテージとしては低い割合である。一方「仲間同士が助け合う姿に感動する」(77.9%)や、「高校野球はプロ化してしまうとつまらなくなっていくと思う」(66.2%)、「高校野球は高校生の人間教育の場であると思う」(65.5%)などの項目が特に高い割合を示していた。この傾向は、野球経験者や複数の情報を見比べる者においても同様であった。「高校野球観」において「鍛錬主義」を重視する野球経験者も、「科学主義」を重視する情報観を持

つものも、どちらも「高校野球の見方」においては、「物語」性やプロとは異なる独自の意味・教育的価値に着目している様相が示唆された。

表4 情報を批判的に検討する態度と「高校野球の見方」

	どんな情報でもまず疑ってかかるほうだ		検定	
	そう思う群 (n=281)	そう思わない群 (n=153)		
「物語」	疲労やケガを乗り越えてプレーする選手の姿に感動する	58.7%	68.0%	n.s.
	仲間同士が助け合う姿に感動する	77.9%	85.0%	n.s.
技術	投手の配球を予測したりバッターの狙いを評価したりしながら見るのが好きである	30.2%	23.5%	n.s.
	バッティングフォームやピッチングフォームについて評価しながら見るのが好きである	27.0%	18.3%	p<.05
戦術	チームのエース投手が一人で投げ抜くことは高校野球らしくてよい	38.4%	32.0%	n.s.
	複数の投手が協力して投げ抜くことは高校野球らしくてよい	59.8%	58.8%	n.s.
独自の意味	高校野球は高校生の人間教育の場であると思う	65.5%	73.9%	n.s.
	高校野球はプロ化してしまうとつまらなくなっていくと思う	66.2%	71.9%	n.s.

%は「そう思う」「ややそう思う」を合計した割合

#### 4.2.5. 「インターネットへの書き込み」

「インターネットの掲示板やSNS、ニュースサイト等に高校野球に関連する事柄について書き込んだ経験があるか」という項目に対して、経験があると回答した者は15.2%、ないと回答した者は84.8%であった。また、書き込み経験がある者の、書き込み時の意識に関しては、「メッセージが選手や監督、チームに届くことを期待している」(32.4%)、「特に理由はないがなんとなく書き込みをしている」(25.2%)、「インターネット上で繋がりのある人に自分の意見を知ってもらいたい」(22.5%)、「書き込みによって制度やルールが変わることを期待している」(17.1%)などの意識が見られた。高校野球の「鍛錬主義」的側面に対する炎上として注目されることが多いインターネット・メディアであるが、全体傾向としては、問題提起よりも、「なんとなく」や「情報共有」として利用する者の方が多い傾向が示唆された。

#### 4.3. インターネット・メディアの作用

「安楽投手(済美)連投問題」について言及したTwitter言説として、炎上が生じた当日から大会終了翌日まで(2013年3月31日~4月11日)の12日間に、

「安楽 (安楽) and 連投」のキーワードを含んだ Tweet を抽出したところ、978 Tweet が抽出された。

これらの Tweet に関して、その内容が連投問題に対して「肯定的」か、「否定的」か、「両論併記的」かという観点から分類したところ、表 5 に示すように、全体の 77.4% が連投問題に「否定的」な Tweet に分類された。

表 5 Tweet の内容

肯定的	否定的	両論併記的	その他
57件(5.8%)	757件(77.4%)	46件(4.7%)	118件(12.1%)

また、Tweet の投稿日時を時系列ごとに分析したところ、図 3 に示したように、連投問題が生じた翌日から 3 日後にかけての 3 日間のみで、全体の 93.9% の Tweet が投稿されていた。

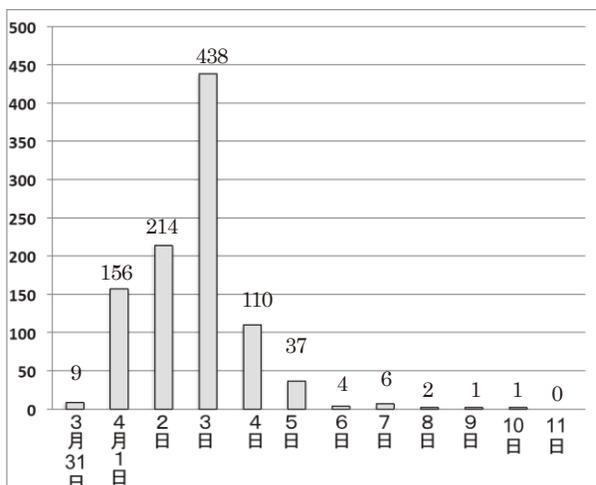


図 3 Tweet の時系列推移

安楽投手は、3月31日の二回戦における登板で連投や球数の多さが問題視された後も、4月4日の決勝戦まで、全試合を完投している。しかし、決勝戦当時には既に Tweet は減少傾向にあり、決勝翌日以降については、数件みられる程度に収まっている。

以上のように、「安楽投手 (済美) 連投問題」に関するツイッター言説に着目すると、「問題である」とされた事象に対しての批判的言説が短期間に瞬発的に表出している様相が看取された。

## 5. まとめ

本研究における 3 つの分析の結果、主に以下の知見

が得られた。

- ・ 夏の甲子園における投手の「完投型」の減少にみられるように、特に 1990 年代以降、医科学的知見の蓄積と制度的対応に呼応して、高校野球の実践形式が「科学化」してきている側面がある。
- ・ 人々の「高校野球観」については、「鍛錬主義」と「科学主義」の 2 つの傾向性が認められた。
- ・ 野球経験者は「鍛錬主義」を重視する傾向にあり、また、情報を批判的に検討する者や複数の情報を見比べる者は「科学主義」的傾向にあるなど、野球経験の有無や情報観の差異などの属性によって「高校野球観」に差異がみられた。
- ・ 「高校野球の見方」は、「物語」性や「独自の意味」が重視される傾向が強く、この傾向は「野球観」において「鍛錬主義」を重視する属性の者も、「科学主義」を重視する属性の者も同様であった。
- ・ 高校野球に関するインターネットへの書き込みについては、全体傾向として問題提起を意図したものよりも、情報共有や、「なんとなく」書き込まれる割合が高かった。
- ・ 高校野球に関するインターネット上の炎上は、「問題である」とされた事象が発生した直後に批判的言説が瞬発的に増加していた。

以上の結果について、以下で考察を行う。高校野球に関する実践が「科学化」していく中で、人々の「高校野球観」は、「科学主義」を重視するか、「鍛錬主義」を重視するかという点において、揺らぎが生じているものと推察される。特に、情報を批判的に検討する者や複数の情報を見比べる者など、いわゆる「情報リテラシー」の形成がみられる人々が「科学主義」を重視する傾向にあることについては、価値観とメディアの関わりという点において、非常に示唆的である。これまでマスメディアを通じて伝統的に生成されてきた「鍛錬主義」的な価値に対し、現代のメディア環境に要請された「情報の相対化」という受け手の態度形成が、結果として受け手による従来の価値の相対化を生じさせ、新しい「科学主義」的な価値づけを表出させる力学となり得ている可能性がある。

しかしながら、「高校野球の見方」の結果を踏まえれば、「科学主義」的な「高校野球観」を志向する者にも、高校野球にまつわる「青春」「若者らしさ」の「物語」は共有されているように思われる。すなわち、「鍛錬主義」か「科学主義」か、という価値観の揺らぎは、「青春」「若者らしさ」という、高校野球に関する認識の大きな枠組み自体を揺さぶるものではないと捉えうる。

インターネット・メディアについては、「鍛錬主義」

的な高校野球のあり方に対する炎上も看取されるが、その瞬発性や、発信者の意図を踏まえれば、それ単体として高校野球のあり方を根本から問い直させる作用があるというよりも、内容より盛り上がること自体に目的が置かれた「カーニヴァル的」言説(中山・松尾, 2019)のように見受けられる。しかし、結果として「どのような価値がせめぎ合っているのか」を可視化させることに繋がるものであるともいえる。

このように、現代の高校野球に対する人々の価値観は、実践の歴史的变化という背景のなかで、情報への態度などの受け手の属性によって、「鍛錬主義」と「科学主義」という価値の揺らぎがみられ、その揺らぎは現代的なメディア環境において結果として可視化されているものといえる。一方で、その揺らぎに関わらず、どちらの価値を重視していても、大枠としては「青春」「若者らしさ」の認識枠組みが共有されている可能性があるという、重層的な構造を指摘できる。

#### 【参考文献】

- 有山輝雄(1997) 甲子園野球と日本人—メディアのつくったイベント—. 吉川弘文館.
- 林正(1983) 夏の高校野球甲子園出場選手の身長・体重の推移—運動生理学的研究Ⅱ. 体力科学, 32(6): 487.
- 加藤徹郎(2009) 筋書きのないドラマの「語り」を探る—スポーツダイジェスト番組『熱闘甲子園』における物語論—. 藤田真文・岡井崇之編, プロセスが見えるメディア分析入門—コンテンツから日常を問い直す—, 世界思想社: 11-36.
- 中山健二郎・松尾哲矢(2019) 5) 高校野球に纏わる「物語」の再生産に関する分析枠組の検討—「カーニヴァル」的メディア受容態度に着目して—. 九州レジャー・レクリエーション研究, 7: 7-18.
- 清水論(1998) 甲子園野球のアルケオロジ—スポーツの「物語」・メディア・身体文化—. 新評論.
- 山内豊明・西岡英次・百田耕・矢野慎二・倉野久美・松本泉・高柳朔司・志波直人・井上明生(1994) 高校野球部選手の下肢筋力. 整形外科と災害外科, 43(4): 1524-1527.

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。